

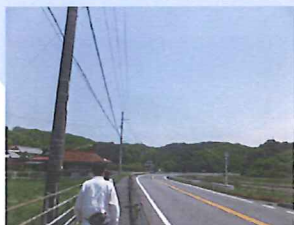
2014. 6月号 広報～風・菜・樹 ふなき便り

社会福祉法人 扶老会 障害福祉サービス事業部

梅雨前に出かけてきました♪

5/16

生活支援センターふなきは日中一時支援でのピクニックにて、山陽小野田市の江汐公園まで歩いて行きました。約4キロの道のりを往復されました。時々行事で江汐公園に行くことがありますが、車で行くのとはまた違った景色を皆さん楽しませていました。



● 晴天の下を歩きます。



● 国道2号線沿いの道。



● 江汐公園に到着。



● 皆で記念撮影！

5/18

サムラは福岡のマリンワールドへ行ってきました！天候にも恵まれ、みなさんと一緒に元気いっぱい楽しみました！！つつい写真もパシャリと…♪「イルカやアザラシのショーや沢山の魚が見られて楽しかった♪」「サンゴ礁がとても綺麗で、写真に残せたので良かった☆」「魚が間近で見られて良かった♪」との利用者の方からも嬉しい感想をたくさん頂きました！



● 水族館に到着。



● 魚の情報を確認！



● 泳ぐ姿をパシャッ！



● 定番のイルカショー！

5/24

ハイツふなきの利用者の皆さんとバス旅行に行きました。行き先は広島県広島市。銘菓のもみじ饅頭工場見学やホテルでのバイキング、ガラスの里でのマドラー作り体験等、企画盛りだくさんの旅となりました。利用者の方からは日頃の日中活動や作業の疲れを癒し、リフレッシュできたとの感想がありました。



● 旅のしおりを制作！



● もみじ饅頭工場見学。



● ガラスの里での一枚。



● マドラー作り体験！

害虫駆除を行いました！

【害虫駆除について】

障害福祉サービス事業部の各事業所では、皆さんが使用される活動室等の共有部やグループホーム等の居室内で燻式の殺虫剤を使用し、害虫駆除を行ないます。毎年虫が卵から孵化する前の梅雨前のタイミングで行う事で、ムカデやゴキブリといった害虫の繁殖を防ぎます。

利用者の皆さんのより安心した生活環境の構築に今後も努めます。

ハイツふなきでは、6月5日（木）に行いました。台所、食堂といった特に害虫の発生しやすい場所を重点的に、その他居室や共同部を全体的に行ないました。扶老会の法面に近い事もあり、害虫の発生しやすい環境の為、効果的な駆除となりました。

ヴィラふなきでは、6月7日（土）、15日（日）の2日間に分けて行いました。利用者・職員一丸となって居室や共用部の片づけや殺虫剤が触れてはいけないものを外に運び出し、新聞紙を使ってテレビや冷蔵庫の目張りを行います。殺虫剤の噴霧中は待機場所である隣接の生活支援センターふなきの日中活動室にて、開催したばかりのサッカー ワールドカップを観戦しながら余暇を過ごしたり、外食して過ごしました。噴霧終了後は、設置した新聞紙の除去や居室等の清掃をします。自然の豊かな場所でもある為、虫もそれなりにはおりますが、これで安心出来る生活に戻れますね！



● 居室を整理しました！



● 共同部を皆で清掃。



● 居室内でバルサンを炊きますよ。



● 噴霧中には布団も干して、気持ちよく眠れるようにします。

サムラでの就労支援について

サムラでは就労移行支援事業と就労継続支援B型事業の2つの事業を実施しています。就労移行支援事業では履歴書の作成方法や面接の模擬練習、自分がなりたい職種を考えるなど、就職活動を行うにあたって必要なことを様々な作業や勉強を通じて、利用者へ支援しています。今回は実際にサムラの就労移行支援事業を利用し、一般企業に就職された方をご紹介します。

右の写真の方は2ヶ月程前までサムラのホールで接客作業をされていました。本人の希望としてはとにかく就職をしたいとのことで、ホールでの接客技術を身に付けて頂きました。そんな折にハローワークより連絡があり、スーパーのベーカリー部門に面接に行き、実習を重ねた上で就職が決定致しました。

今までホールでの接客を重点的に行ってきた彼ですが、ベーカリー部門での実習では写真の様に手際よくパンの成型や加工をこなされ、最初は片手でしか出来なかったパン生地丸めが実習終了後には両手で出来るようになっていました。今後については、就労支援員が6か月間の間に継続的に会社や本人を訪問し、利用者と会社の双方が共に困ったことがないか、どのようにお互いが相手に対して行動していったら良いかを助言することで、会社での雇用が継続できるように支援していきます。

彼への支援を通じてサムラの職員も利用者の技術向上を図るべく、まずは様々なことをサムラで経験して頂き、その中で利用者がどのような将来を描けるかといった点を支持したいと、今まで以上の意欲を燃やしています。



● 働く姿と、職員の訪問。

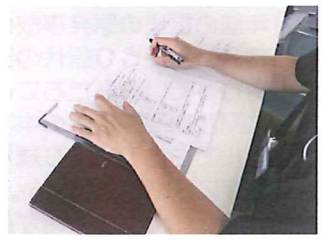
シリーズ ～職員勉強会～

障害福祉サービス事業部全体で毎月実施している職員勉強会ですが、今月は少し趣向を変え、各事業所毎の勉強会を実施しました。

従来、職員勉強会は障害福祉サービス事業部全体で共有していききたい知識について、又は当法人内における各事業所毎の連携強化を目的として実施してきました。一方、昨今の各事業に関する制度の改正に伴い、利用者の多様化や支援内容の充実を目的とした各事業に特化した知識を充実させる重要性も高まってきました。その為、今年度は全体の勉強会だけでなく、各事業所毎の職員勉強会を行って参ります。

今月の職員勉強会のテーマは「報酬」です。実施事業が異なれば本体報酬や加算項目も異なり、その加算を取得する条件も異なってくる為、現在自分が所属している事業の報酬構造を知ることが大切と考えました。各事業所の役職者を講師として、普段職員が行っている支援とその記録がどのようにサービス利用実績に直結し、訓練等給付費や介護給付費といった報酬に繋がるのかをより具体的な数字を基に学びました。今まで業務内では加算項目や単位数について話をする機会はありませんでしたが、利用者への支援から記録・実績・請求等の報酬に関する大まかな流れや具体的な数字を基に話をしたことがなかった為、現場職員は日常の支援が具体的にどういった項目に該当するか確認でき、より支援や記録の充実を念頭に入れて勤務していききたいといった、モチベーションの向上が伺えました。

今後も全体の職員勉強会で共有していききたい知識だけでなく、事業所毎に必要なと思われる知識の取得にも力を入れていきます。



- サムラの勉強会。現場職員に馴染みのない資料でしたが、丁寧に説明し、理解を深めました。

- ハイツふなき、ヴィラふなきの勉強会。日頃の支援を振り返りながら学びました。

スタッフちゃんねる

4月から入職しました小野加代子と申します。大学では心理カウンセラーを目指して心理学を専攻していましたが、大学3年生の時に福祉について学び、福祉の仕事に大きな魅力を感じました。そこから福祉について学び始め、今日こうしてこの仕事に就けた事に喜びと責任を感じています。ハイツふなきの生活支援員として働き始めて2か月が経ちました。不慣れながらも周りの人に支えられながら、毎日楽しく仕事をさせて頂いています。

4月の入職時には、扶老会のあちこちでツバメが巣を作り始めていましたが、今ではすっかり巣も出来上がり、親鳥が卵を温めている姿が見られます。私もまだまだ未熟な卵で、誰かの手を借りなければ何も出来ない新米の支援者ですが、いつか一人立ちする日に向けて一日一日を大切に、利用者の皆さんとの関わりの中で成長していけたらいいなと思っています。

まだまだ未熟な私ですが、よろしくお願いします。

何事も丁寧に...!



サムラの新しい職員を紹介します！

6月1日よりサムラは新体制となり、新たな船出を致しました。来年の開設10周年に向けて、ますます頑張りますので、更なるご指導をお願い致します。



所長【管理者】

佐伯 豪

ハイツふなき、ヴィラふなき、
生活支援センターふなき 兼務

次長/目標工賃達成指導員

小松 毅史

就労支援員

田中 教江



小松次長

4月よりハイツふなきから異動となりました、小松です。異動して2か月経ちましたが毎日楽しく利用者の方々と働かせていただいております。笑顔の絶えない明るく楽しい雰囲気を作り、利用者の方々、地域のお客様方、職員の方々が来店しやすく、また来たいと思っていただけるサムラにしていけるよう利用者・職員と一緒に頑張りたいと思います。これからも「新生・サムラ」を宜しくお願い致します。



田中
就労支援員

5月よりヴィラふなきからサムラへ異動となりました、田中です。業務内容の違いに戸惑う事もありますが、利用者の方や職員から日々学ばせていただいております。一人一人の個性が大切にされ、沢山の笑顔と繋がる事が出来るよう、私自身も良い所を発揮して頑張ります。サムラの利用者の方と一緒に元気いっぱいお客様をお迎えしたいと思いますので、これからどうぞ宜しくお願い致します。



● 私たちサムラのスタッフが気持ち新たに利用者の皆さんを支援させていただきます！

今月のエソラゴト

先日、NHK Eテレで放送された「ハートネットTV」の『60歳からの青春—精神科病院40年をへて—』を観ました。内容は、3年前の福島原発事故の発生で、入院していた精神科病院に避難指示が出されたことをきっかけに、約40年ぶりに退院し社会に出た60歳代の男性を追ったものです。いわゆる「社会的入院」の問題を扱ったものであり、日頃、精神保健福祉に携わっている私たちにとっても、改めてその問題点を考えさせられる番組でした。40年以上という、私が生きてきた年数と同じ期間を病院の中で過ごして来たその男性は、現在、地域のグループホームで安定した生活を送っています。番組のタイトルでもある「60歳からの青春」にもあるように、“リカバリー”への道を歩み出した今後の彼の人生に幸多きことを祈らずにはいられません。

さて、この時期に上記の番組が放送されたことには、実は大きな意図があると思います。現在、国では「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的な方策に係る検討会」が開かれ、社会的入院を解消し、地域移行を推進するための具体的な解決策を専門家や有識者が議論しています。6月中にはその方針が取りまとめられるので、本紙がお手元に届くころには厚労省のホームページで概要を確認することができると思います。

実は、この検討会で検討されている“ある方策案”をめぐる論争が起きています。それは、『病棟転換型居住系施設』の是非についてです。分かりやすくいうと、「精神科病棟を住居に“転換”して、そこに“退院”させて、“地域移行”とする」という方策です。この“看板の掛け替え”のような案が、当事者をはじめ、各団体や関係者からの大きな反発を招いているのです。折しも、我が国は今年1月に「障害者権利条約」の批准国となったばかり。当事者の意思を置き去りにし、国や病院経営の都合だけで決められる障害者施策は重大な権利条約違反であり、人権問題である、との意見もあります。

この方策案を推進する有識者が、「病院で死ぬということと、病院内の敷地にある自分の部屋で死ぬということには大きな違いがある」と導入を主張しています。この言葉が当事者の声を代表するものであるなら、そこに異論を挟む余地はないでしょう。しかし、そうでないとしたら、これは傲慢な手前勝手な解釈に他なりません。この論争の是非はともかく、障害者権利条約の精神である「Nothing About Us Without Us（私たちのことを抜きに、私たちのことを決めるな）」を忘れずに、素晴らしい施策が作り出されることを期待します。

(佐伯)

CHECK!



〒757-0216

社会福祉法人扶老会 障害福祉サービス事業部
山口県宇部市大字船木833

(0836) 67-0188 自立訓練・宿泊型自立訓練・就労継続支援B型
(0836) 67-1883 グループホーム(介護サービス包括型)
(0836) 67-2464 相談支援事業・日中一時支援
(0836) 67-0171 就労移行支援事業・就労継続支援B型

ホームページ <http://www.furoukai.jp/>

ブログ <http://www.furoukai.jp/cms/heightsfunaki/7>